

古里に野球教室で恩返し

岩手県陸前高田市出身で八戸学院大学硬式野球部に所属する村上元太さん(19)は、人間健康学科1年。が、同部のチームメイトとともに同市を訪れ、小学生を対象に野球教室を開いた。東日本大震災から10年がたった現在も復興の途にある古里への恩返しと、被災地の現状を仲間に知ってほしいという思いからだ。その熱意にコーチ、部員らが快く賛同。子どもたちに野球ができる喜びを伝えるという夢をかなえた村上さんは、支援してくれた大学や古里の関係者に心から感謝している。

(千葉真由美)

岩手・陸前高田出身 村上さん

八学大チームメイトと

18日、同市の高田松原運動公園で行われた野球教室。



村上元太さん

向けて野球教室を開いた経験などから、「子どもに教えることに興味があった」という。加えて昨年、同校が25年ぶりにベスト4入りした夏季岩手県大会で「温かい声援を送ってくれた地域の方々への恩返し」という意味もあった。

野球教室の前日には、チームメイトを同市の東日本大震災津波伝承館に案内した。津波の映像や被害状況を伝える資料を見て、言葉を失った人もいた。

村上さんは「会場予約など裏方の仕事を一人でやっていたので大変だったけれど、野球教室を開催して良かった。来年もぜひやりたい」と笑顔で語った。また、「教室をきっかけに野球が楽しい、続けたいと思ってくれたらうれしい。教えたことを生かし、さあ上の舞台を目指して」と古里の子どもたちへエールを送った。

室。スポーツ少年団に所属する小学3、4年生67人が参加し、村上さんを含め1年生部員19人とコーチ1人が講師を務めた。準備体操やミニゲームの後、ポジションごとに守備練習と打撃練習に汗を流した子どもたちは「守備やバッティングで分からないことがあったけれど、しっかり覚えることができました」「これからの試合に生かしたい」などと笑顔で語った。

10年前、小学2年生だった村上さんは自宅が津波で全壊し、仮設住宅で約5年間暮らした。4年生から野球を始めたが、震災前にチームが練習で使っていた場所に仮設住宅が建ったため、田んぼだった空き地などを借りて練習に励んだ。「小さい頃はあまり考えなかったけれど、土地を貸してくれた方がいたら野球を続けられた」としみじみと語る。

古里での野球教室は、高田高校在学中からの夢だった。同校野球部が保育園児



岩手県陸前高田市で開いた野球教室で子どもたちに守備についてアドバイスする部員(八戸学院大硬式野球部提供)